

株主の皆様へ

J F E
だより Winter

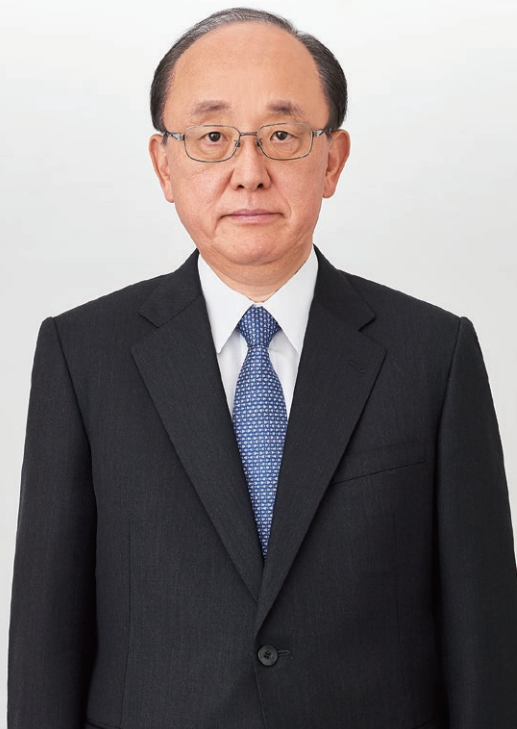
第18期 中間

2019年4月1日▶9月30日

特集

グローバル展開を加速させ海外での
プレゼンスを拡大するJFEグループ

- ・タイの自動車産業
- ・電磁鋼板事業の強化

Top
Message

厳しい経営環境のなか 収益力の強化に 取り組んでまいります

株主の皆様には、平素よりJFEグループの活動に
対しまして温かいご理解とご支援を賜り、
心より御礼を申し上げます。
初めに2019年度上期の決算の概要や、
通期の見通しについてご説明いたします。

代表取締役社長(CEO) ^{かきぎ}柿木 ^{こうじ}厚司

2019年度上期の業績概要

今年度上期のわが国経済は、全体的には底堅い内需に支えられ緩やかに回復したものの、輸出や生産で弱さが続きました。海外経済は、米国においては緩やかな回復基調となったものの、保護主義的な政策による世界的な貿易摩擦の激化や、英国のEU離脱問題の影響等により、アジアやヨーロッパの一部に弱い動きが見られました。

鉄鋼事業においては、鋼材価格の改善や継続的な収益改善に取り組んだものの、主原料価格や、資材費、物流費等の上昇により、コストが大幅に増加したことに加え、海外市況の悪化や、棚卸資産評価差等の一過性の減益要因もあり、セグメント利益^(注)は177億円となりました。

エンジニアリング事業においては、受注済プロジェクトの着実な遂行の結果、売上収益が増加したことにより、セグメント利益は119億円となりました。



JFE ホールディングス 株式会社

JFE Group

商社事業においては、貿易摩擦の影響により米国や中国等において需要が減少したことに加え、国内外グループ会社の収益悪化により、セグメント利益は146億円となりました。

以上の結果、グループ連結での上期の事業利益^(注)は490億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は319億円となり、前年同期に比べてそれぞれ1,056億円、769億円の減益となりました。

● 2019年度の業績見通し

2019年度の連結業績は、売上収益3兆7,300億円、事業利益600億円、親会社の所有者に帰属する当期利益330億円となり、前年度に比べ大幅に減収・減益となる見通しです。

鉄鋼事業は、国内では、特に建機・産機および建築分野での需要が一層弱まっており、底打ちの兆しが見られない状況です。海外では、米中貿易摩擦の激化などを背景に、世界各地域の減速感はさらに高まっており、海外鋼材市況も価格競争激化などにより下落しております。このような厳しい環境のもと、需要および市況に見合った形で生産調整を行っており、主原料価格や諸物価の上昇による大幅なコストの増加や販売価格の下落に加え、棚卸資産評価差等の減益要因も重なり、鉄鋼事業の通期のセグメント利益はゼロとなる見通しです。足元の急激

な収益環境の悪化を受け、固定費等の徹底したコスト削減や第6次中期経営計画における国内設備投資額1兆円のうち1,000億円程度の圧縮を実施してまいります。

一方、主原料価格の上昇や諸物価上昇分の販売価格への反映につきましては、お客様に一定のご理解はいただいたものの、持続的成長を可能とする収益水準の確保にはまだ十分な価格水準に達していないため、これまで以上に価格改善を丁寧にお願ひして理解を得ていく所存です。

エンジニアリング事業は、高水準となっている受注済プロジェクトの着実な遂行に取り組んでおり、通期のセグメント利益は230億円となる見通しです。

商社事業は、米中貿易摩擦に伴う海外の景気減速による需要減や販価下落等の影響により、通期のセグメント利益は320億円となる見通しです。

当社としては、厳しい収益環境を踏まえ、財務健全性の維持を目的として、第6次中期経営計画期間において1,500億円程度の資産圧縮によるキャッシュフロー対策を実施してまいります。

● 株主の皆様へ

こうした大幅な減収・減益という厳しい状況を受けまして、誠に遺憾ながら、中間配当につきましては1株当たり20円とさせていただきます。期末配当につきましては、

今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、現時点で未定であります。

激変する経営環境のなかではありますが、必要な施策を着実に実行することにより、引き続き収益力の強化とすべてのステークホルダーの皆様にとっての企業価値最大化に取り組んでまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



^(注)JFEグループは、前期の期末決算より従来の日本基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を適用しており、前期の数値もIFRSに組み替えて比較分析を行っております。

- ・事業利益：税引前利益から金融損益および金額に重要性のある一過性の項目を除いた利益であり、当社連結業績の代表的指標です。
- ・セグメント利益：事業利益に金融損益を含めた、各セグメントの業績の評価指標です。

	2018年度通期	2019年度上期	2019年度通期見通し
	(単位: 億円)		
売上収益	38,736	18,712	37,300
事業利益	2,320	490	600
セグメント利益	2,195	427	470
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,635	319	330
資産合計	47,092	48,303	—
資本合計	19,917	19,955	—
	(単位: %)		
ROS ^{※1}	6.0	2.6	1.6
ROA ^{※2}	5.0	—	1.2
ROE ^{※3}	8.6	—	1.7
親会社所有者帰属持分比率	40.9	39.7	—
D/ELシオ ^{※4}	68.2	79.2	85.3

※1 ROS = 事業利益 / 売上収益

※2 ROA = 事業利益 / 資産合計

※3 ROE = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 親会社の所有者に帰属する持分

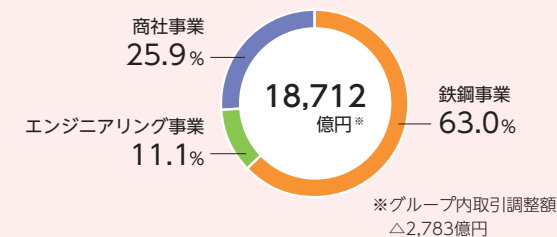
※4 D/ELシオ = 有利子負債残高 / 親会社の所有者に帰属する持分 (格付評価上資本性を併せ持つ負債について、格付機関の評価により、資本に算入)

Point ① 売上収益の事業別内訳

(単位: 億円)

	2018年度 通期	2019年度 上期	2019年度 通期見通し
鉄鋼事業	28,306	13,531	26,900
エンジニアリング事業	4,858	2,389	5,200
商社事業	11,258	5,575	11,200
調整額	△5,686	△2,783	△6,000

2019年度上期売上収益構成比



Point ② セグメント利益の事業別内訳

(単位: 億円)

	2018年度 通期	2019年度 上期	2019年度 通期見通し
鉄鋼事業	1,613	177	0
エンジニアリング事業	201	119	230
商社事業	357	146	320
調整額	23	△15	△80

グローバル展開を加速させ海外でのプレゼンスを拡大するJFEグループ

当社グループは第6次中期経営計画(2018~2020年度)において掲げた目標の一つである海外事業の推進と収益拡大を達成すべく、グローバル展開を加速させてきました。この特集では、鉄鋼事業や商社事業を中心に、海外におけるJFEグループの取り組みについてご紹介します。

鉄鋼事業 JFEスチール株式会社

タイの自動車産業において圧倒的なプレゼンスを誇るJFEグループ

JFEグループはこれまで、成長の著しいアジア諸国を中心に、グローバルな生産体制を作ってきました。特にタイは近年目覚ましい経済成長を遂げており、東南アジア最大の自動車生産拠点として、2018年の生産台数は200万台を超えています。

JFEスチール(株)は日本の鉄鋼会社の中でも先駆けて1972年にタイへ進出し、1998年にはタイ初となる冷延鋼板工場にて、自動車向けの生産を開始しました。タイの自動車総生産台数に占める日本車のシェアは8割を超えていますが、その多くにJFEスチールやJFEスチール・ガルバナイズング(タイランド)(以下、JSGT)の製品が使用されており、タイの自動車業界においてJFEグループは圧倒的なプレゼンスを誇っています。

2018年以降、順調に生産量を伸ばし続けるJSGT

JFEスチールは、タイで操業する日本の自動車メーカーに対してタイムリーに鋼板を供給することを目的に、2013年、JSGTでの自動車用溶融亜鉛めっき(CGL)工場の稼働を開始しました。溶融亜鉛めっき鋼板は耐食性に優れていることから、自動車の外板パネルなどに使用されています。

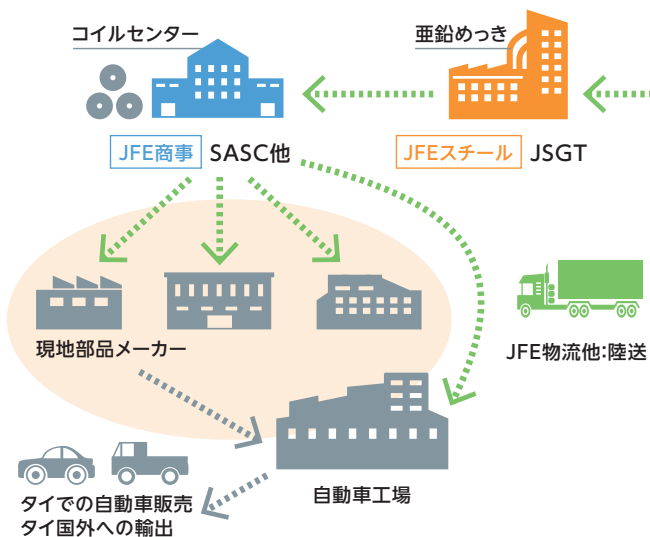


▲亜鉛めっき加工を行うJSGT工場

海と陸の連携で紡がれる鉄のサプライチェーン

JSGTのCGLで使われる原板は主に西日本製鉄所で製造され、タイへ送られています。海路を経てタイへ到着した原板は、

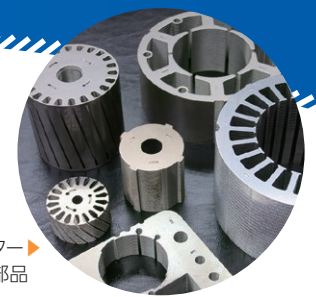
JFE サプライチェーンマップ



タイの自動車需要拡大に伴ってJSGTの生産量は年々増え、2018年以降、月別の生産量の新記録が続き、能力フル稼働の状態が継続しています。

JFEグループが連携し、強固なサプライチェーンを構築

タイにおけるJFEグループの圧倒的なプレゼンスを支えているのが、グループ一体となって構築したサプライチェーンです。進捗管理・発注管理等の業務はJFE商事(株)がJFEスチールと一体となって行い、JSGTで加工した鋼板



モーターコア:モーター
内部に使用される部品

商社事業 JFE商事株式会社

電磁鋼板事業の強化によりビジネスチャンスを拡大

近年、環境保護・CO₂削減の観点から、自動車の電動化や高性能で消費電力の少ない電気機器等のニーズが高まっています。これらに必要なモーター等に用いられる高品質の電磁鋼板を、世界最高レベルの技術を用いて製造できるのがJFEスチールの強みです。JFE商事は、独自に構築したきめ細かいグローバルサプライネットワークを駆使して電磁鋼板を国内外のお客様にお届けしており、今後も日本・米州・中国・アセアンにおけるグローバル4極体制を確立してさらなる成長に向けた事業基盤の強化を進め、グループ一体となって地球環境の保全に貢献していきます。

中国 中国における 車載モーターコア事業を強化

2019年4月、JFE商事はフランスの大手モーターコアメーカー r. bourgeois S.A社の中国現地法人Zhejiang r. bourgeois mechanics社の一部株式を取得しました。同社のモーターコアは電気自動車(EV)をはじめとした電動車に使用されており、排気ガス削減を通して環境への負荷低減に貢献しています。r. bourgeois S.A社とJFE商事のアライアンスは2014年に北米で既にスタートしており、今後は政府主導で電動車化を推進している中国においてサプライチェーンマネジメントを強化することで、成長の期待されるモーターコア需要に応えていきます。



▲モーターコアを製造している中国現地法人の本社工場

米州 グローバルな 変圧器用コア事業を強化

2019年9月には、Tata Steel UK Limitedの傘下にある、カナダトロント近郊のCogent Power Inc. (以下、Cogent社)の株式を100%取得しました。同社は、送配電に使用される変圧器の効率化を通して電力消費量削減に貢献しています。また、同社は北米における変圧器用コア加工では最大の規模を誇っており、本買収によってJFE商事は世界トップレベルの加工・流通機能を有することになります。JFEグループが日本、アセアン、インドなどで展開してきた変圧器用コア加工技術と、Cogent社の持つ技術や事業ノウハウを共有・統合することで、さらなる競争力の強化が期待されます。

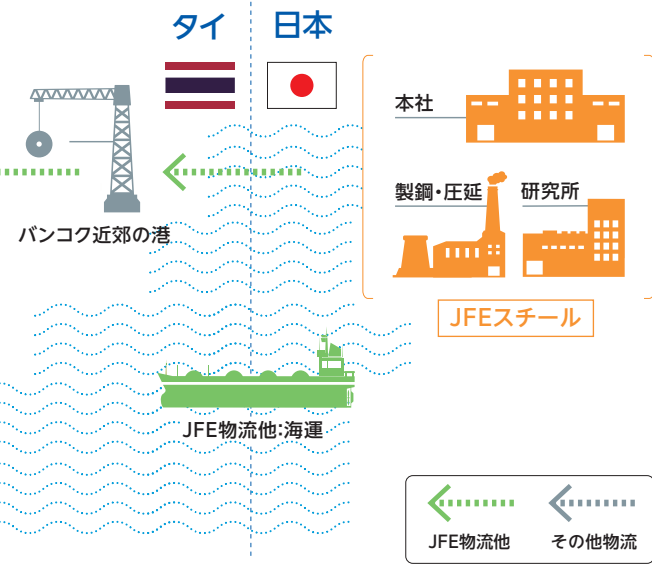


▲製造ラインを移動する変圧器用コアの中間製品



▲性能を向上させるための加熱炉から出てきた変圧器用コア

さらにそこからトレーラーを使って陸路でJSGTへ運ばれます。めっき加工が施された後は、必要に応じてコイルセンターで加工され、タイで生産している自動車メーカーへ納入されます。



のカット加工などはJFE商事グループのSTEEL ALLIANCE SERVICE CENTER CO., LTD.(SASC)が行っています。加えて、デリバリー全般をJFE物流タイが担っており、JFEグループ全体で一枚岩となって対応することで、お客様への一元的な提案やニーズに対応しています。



▲原板の陸路輸送



防災・減災と地球温暖化防止に向けて「スマートエナジー熊本」が始動

災害に強いまちづくりとエネルギーの最適利用を目指して

熊本市は、2016年の熊本地震を契機に、災害に強いまちづくりとエネルギーの最適利用に取り組んできました。JFEエンジニアリング(株)は、西部環境工場の設計・建設・運営における実績が認められ、2018年に設立した「スマートエナジー熊本」を事業主体として、2019年5月、熊本市との協働による総合エネルギー事業を開始しました。スマートエナジー熊本は、ごみを焼却する際に発生する熱を利用して発電した電力を市内200以上の公共施設に供給するほか、自営の送電線や蓄電池の設置を通じてエネルギーの最適利用や防災・減災に貢献します。

事業メリットにより電気自動車や低炭素住宅の導入を支援

スマートエナジー熊本の事業を通じて、年間約1.6億円の電気料金削減が見込まれており、熊本市は、その一部を基金に、地球温暖化防止に向けて、市民や事業者に対して電気自動車(EV)や低炭素住宅*などの導入を支援していく予定です。今後もJFEエンジニアリングは、再生可能エネルギーの地産地消を進め、地域社会を主体とした持続可

能な社会の実現に向けて取り組むとともに、運営・維持管理まで含めた運営型事業を加速させ、長期にわたる収益の安定化に取り組んでいきます。

*低炭素住宅
生活に伴って発生するCO₂を抑制するための措置(省エネなど)が講じられている住宅のこと

自営の送電線で災害に強いまちづくりに貢献

熊本地震発生時にも操業を維持した西部環境工場から、市指定の緊急避難所である城山公園に自営の送電線を敷設。地震や台風に強い地中埋設の送電線を通じて、災害時にも約150世帯分の送電が可能です。将来は、充電設備も設置し、EVやEVバスによって各世帯や他の避難所への送電を行います。

蓄電池活用によるエネルギーマネジメント

市内2カ所の公共施設(上下水道局庁舎、南区役所)に蓄電池を設置。西部・東部環境工場の夜間余剰電力を蓄電し、昼間の需要の高い時間帯に利用することで、電力の最適利用に貢献します。将来的には、20カ所の公共施設に蓄電池を設置します。

熊本市の総合エネルギー事業モデル



JFE GROUP REPORT 2019 (統合報告書)を発行

JFEグループの中長期的な成長戦略や、ESG(環境・社会・ガバナンス)課題への対応など、持続的な企業価値の向上のための取り組みを紹介しています。ぜひご覧ください。



[HOME](#) ▶ [株主・投資家情報](#) ▶ [IR資料室](#)

▶ [JFE GROUP REPORT](#)

<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>



CSR報告書2019を発行

JFEグループが取り組むCSR活動の詳細を、主に「環境」「社会性」の側面からテーマ別に報告しています。本年度は特集として気候変動への取り組みを紹介していますので、ぜひご覧ください。



[HOME](#) ▶ [CSR\(環境・社会\)](#)

▶ [データダウンロード](#)

<https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/data/index.html>



● 会社概要 / 株式の現況 (2019年9月30日現在)

名称(商号)	JFE(ジェイ エフ イー) ホールディングス株式会社 [英文名称: JFE Holdings, Inc.]
本店所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 電話 03(3597)4321(代表)
設立	2002年9月27日
資本金	1,471億円
発行可能株式総数	2,298,000,000株
発行済株式総数	614,438,399株
株主数	225,245名

● 株主メモ (2019年9月30日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 剰余金の配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告の方法 【アドレス】	電子公告 https://www.jfe-holdings.co.jp/

● 経営体制 (2019年9月30日現在)

取締役		監査役	
代表取締役社長	柿木 厚司	監査役(常勤)	原 伸哉
代表取締役	北野 嘉久	監査役(常勤)	馬場久美子
代表取締役	寺畑 雅史	監査役(社外)	大八木成男
取締役	織田 直祐	監査役(社外)	佐長 功
取締役	大下 元	監査役(社外)	沼上 幹
取締役(社外)	吉田 政雄		
取締役(社外)	山本 正巳		
取締役(社外)	家守 伸正		

執行役員

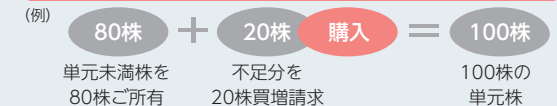
社長	柿木 厚司	CEO(最高経営責任者)
副社長	寺畑 雅史	CFO(最高財務責任者) 総務部、企画部、IR部および財務部の統括
専務	藤原 弘之	総務部および企画部の担当
専務	田中 利弘	IR部および財務部の担当

株式のお手続きに関するお知らせ

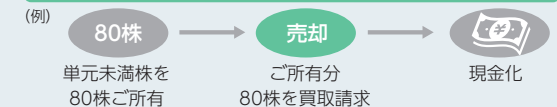
単元未満株式の買増・買取制度について

100株に満たない株式(単元未満株式)は市場では売買することはできません。以下の方法にてご所有の単元未満株式を整理することができます。

買増請求 (買い足して単元株(100株)にする場合) **買**



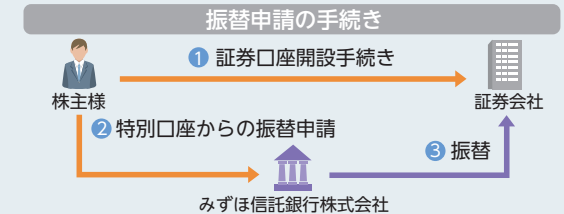
買取請求 (売却して現金化する場合) **売**



証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引証券会社等にご連絡ください。それ以外の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部(下記)にご連絡ください。

特別口座から証券会社等の口座への振替について

特別口座に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式の当社への買増・買取請求を除く)ので、証券会社に取引口座を開設して、開設された口座に株式を移し替える手続き(振替申請)をお勧めします。



●お問い合わせ先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

☎0120-288-324(平日9:00~17:00)

配当金のお支払について

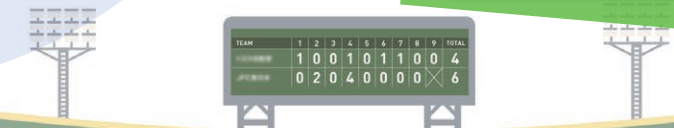
2019年度中間配当金のお支払開始日は12月6日となります。

知ってる?
JFE

JFE 東日本硬式野球部 第90回都市対抗 野球大会で優勝

2019年7月13日～25日に東京ドームで行われた第90回都市対抗野球大会で、千葉市代表として出場したJFE東日本硬式野球部が初優勝を果たしました。

地域の方々をはじめとして、5試合で計5万人以上の方々にご来場いただき、決勝戦では東京ドームのスタンドを埋め尽くす大応援団が選手に大きな声援を送りました。また、力強い応援団員の掛け声とそれに呼応するブラスバンドの演奏、総州太鼓や千葉おどりなど郷土色満載の応援が評価され、応援団コンクールで最優秀賞に輝きました。



地鳴りのような大迫力で試合を盛り上げた応援団



優勝の瞬間!

地域から愛される野球部を目指して、今後も一層精進します。

多くの皆様から多大なるご声援をいただき、優勝という最高の結果を残すことができました。ありがとうございます。大会期間中、選手たちは一戦一戦成長しながら、「超攻撃野球」を表現してくれました。私たちは、少年野球教室を通じた地域の方々との交流など、オフシーズンの活動も積極的に行っています。会社や地域の応援があってこそ社会人野球ですから、今後も、多くの皆様と喜びを分かち合えるよう一層精進します。



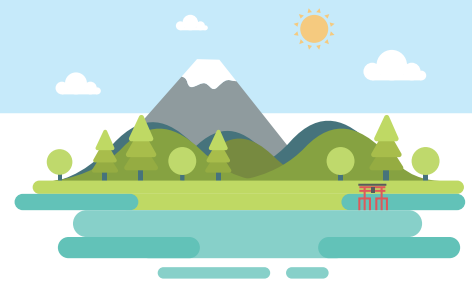
JFE東日本硬式野球部監督 落合成紀

JFE西日本硬式野球部 ベスト8入り



同大会において、JFE西日本硬式野球部は攻撃・守備の両面で観客を魅了し、ベスト8入りを果たしました。

撮影:毎日新聞社



箱根海賊船「クイーン芦ノ湖」の引渡しを完了

ジャパン マリンユナイテッド(株)は、芦ノ湖を運航する歴代すべての海賊船を建造しています。

2019年4月には、7代目となる新たな箱根海賊船「クイーン芦ノ湖」の引渡しを完了し、現在、5代目・6代目とともに運航中です。4代目海賊船「バーサ」の次世代船として建造された本船は、内装・外装のデザインおよび施工をJR九州の豪華列車「ななつ星in九州」などを手掛けたドーンデザイン研究所が担当するとともに、低騒音・低振動・バリアフリーなどに配慮した「人にやさしい船」となっています。



2019年4月25日に営業運航を開始した「クイーン芦ノ湖」